

図 2-1. 年齢調整罹患率の推移 (男性)

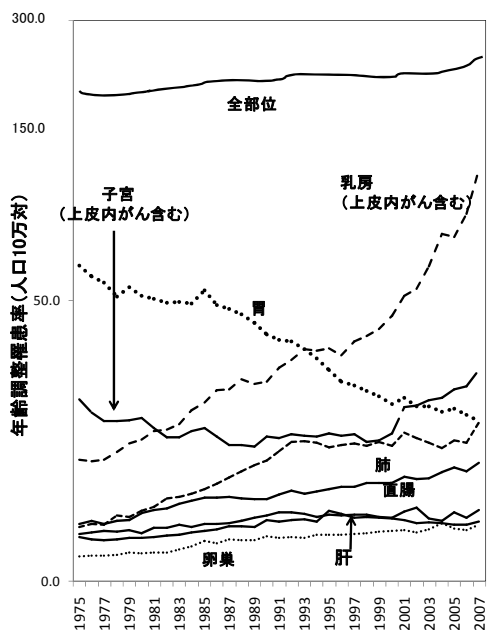


図 2-2. 年齢調整罹患率の推移 (女性)

罹患の国際比較では、胃がんは、アジアが世界の各国より高く、なかでも日本が最も高かった。一方で、前立腺はアジアの中では高いが、アメリカ、ヨーロッパ、オセアニアと比較すると低かった。この傾向は乳がんでもみられた(図 3)。

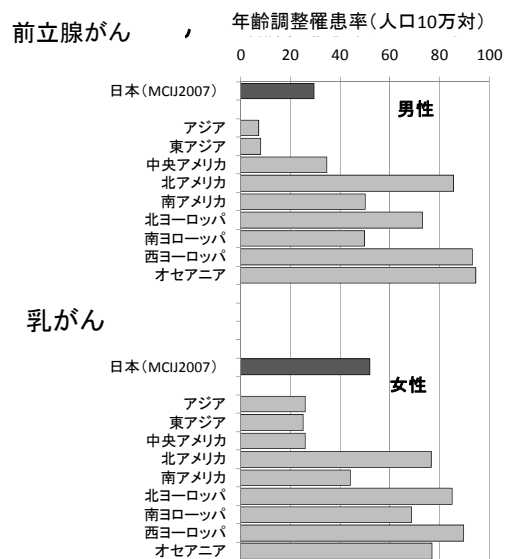


図 3. がん罹患の国際比較

日本の部位別年齢調整罹患率 (世界基準人口)
2007 年推計値 : MCIJ2007
各国の部位別年齢調整罹患率 (世界基準人口)
2008 年推計値 :
GLOBOCAN2008(<http://globocan.iarc.fr/>)

4. 考察

値の変化については、がん罹患の変化の実態を捉えているとするには問題が多く、各地域におけるがん診療連携拠点病院の指定による院内がん登録の整備、DPC 病院における地域医療指数に地域がん登録への参画が記載されたことによる届出数の増大も、変化の要因と考えられるため、解釈には注意が必要である。特に、部位別の変化については推計利用登録県の違いも要因となり得、数値が安定していないので慎重を期さなくてはならない。また、精度基準を満たした推計利用地域間での精度のばらつきが罹患数、罹患率に影響を与えていることも考慮する必要ある。

謝辞

厚生労働科学研究費補助金 第 3 次対がん総合戦略研究事業「がん罹患・死亡動向の実態把握に関する研究」班へのデータ提供にご協力いただいた 33 の地域に謝意を表します。